

気管支喘息の発症に関する感染の影響について

小田嶋 博*、西間 三馨**

要約：気管支喘息およびアトピー性皮膚炎患者（4歳以下、330名）の初診時病歴および血液学的検査結果を検討し以下の結論を得た。1）、感冒または肺炎に罹患しやすいことは喘息の発症に関連していた（特に1歳および2歳）。2）、ダニは喘息の発症に関連していると考えられた。3）、1歳未満では気管支喘息の患児は喘息の家族歴をもったものから発症しやすかった。4）、妊娠中の母親が卵または牛乳を制限することは疾患の発症とは関連しなかったが血清のIgE値の上昇を防ぐ可能性があると考えられた。

見出し語：気管支喘息、アトピー性皮膚炎、血清IgE、家族歴、妊娠、上気道感染

1. はじめに

小児におけるアレルギー性疾患はアレルギー性疾患とよばれる経過をとるものが多い。即ち生後数カ月から湿疹が認められ、1歳半ごろから気管支喘息（以下、喘息と略す）に移行していくのがみられる。しかし、あるものは喘息が発症せずに湿疹のまま、または湿疹が軽快して終る。この両者の違いについて検討することはアレルギー性疾患の発症や経過を考える上で重要であると思われる。

今回は喘息の発症に影響を与える因子について検討するために国立療養所南福岡病院小児科を受診した喘息患者330名について検討した。

2. 対象および方法

対象は国立療養所南福岡病院小児科を初診した5歳以下のアトピー性皮膚炎または喘息患者330名である。家族により病歴表を記載してもらい、看護婦または医師が内容を確認した。病歴では家族歴、母親が妊娠中の栄養として気をつけた点、乳児期の栄養、離乳食の開始時期、感冒および肺炎罹患傾向について確認した。また、可能な限り血清IgE、卵白、大豆、牛乳、ダニに対するIgERAST値についても検討した。

3. 結果

(1)診断名と感冒および肺炎の罹患傾向との関連：

*国立療養所南福岡病院小児科 (Department of Pediatrics, National Minamifukuoka Chest Hospital) **国立療養所南福岡病院 (National Minamifukuoka Chest Hospital)

全体的に喘息児はアトピー性皮膚炎の患児に比較して感冒または肺炎に罹患しやすい傾向が見られた。特に1歳と2歳の群においてその傾向が認められた。

(2)ダニ特異的RASTscore値3以上のものについての疾患ごと頻度：特に低年齢ではダニ特異的IgE抗体が陽性のものは喘息の患児に多い傾向が認められた。

(3)カーペットを用いている家庭と用いていない家庭におけるダニのRASTscoreが3以上のものの頻度：疾患毎に比較検討したが有意な差は認められなかった。

(4)ダニ特異的IgG値：年齢別に、また疾患別に検討した。すると1歳児のみにおいて喘息群はアトピー性皮膚炎群に比較して有意にダニ特異的IgGの値が高値を示していた。

(5)家族歴との関係：家族歴として両親と、祖父母のみを対象として検討した。これも年齢別に検討したが、1歳児においてのみ喘息の患児には喘息の家族歴の者が多かった。

(6)娠中の母親の栄養法と疾患との関係：有意な結論は得られなかった。

(7)血清のIgE値と妊娠中の母親の栄養について：卵と牛乳について妊娠前と比較して増やしたものの制限したものの、特にかえなかったというものについて検討したところ増やしたと答えた者では減

らした者、特にかえなかった者に比較して血清のIgEの値は高値を示す傾向がみられ、除去した者はかえなかったものよりもさらに低値を示す傾向が見られた。ただし、この傾向は1歳未満の児についてのみみられ、それ以外の年齢の患児には認められなかった。

(8)1歳未満では月齢によって血清のIgEの値は異なるので各疾患別の年齢を比較したが各群間に差は認められなかった。

4. まとめ

1. 感冒または肺炎に罹患しやすいことは気管支喘息の発症に関連していると考えられた。とくに1歳および2歳ではその傾向が認められた。

2. ダニは気管支喘息の発症に関連していると考えられた。

3. 1歳未満では気管支喘息の患児は気管支喘息の家族歴をもったものから発症しやすかった。

4. 妊娠中の母親が卵または牛乳を制限することは疾患の発症とは関連しなかったが血清のIgEの値が上昇するのを防ぐ可能性があると考えられた。

5. 結論

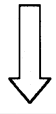
喘息の発症には家族歴、感冒や肺炎に罹患しやすいこと、およびダニの関与が考えられた。妊娠中に卵や牛乳を積極的にとることは望ましくない。

Abstract

Influence of some factors on the onset of bronchial asthma
Hiroshi Odajima, Sankei Nishima

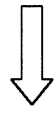
Three hundred and thirty patients, aged 4 years or less, was studied to clarify the influence of some factors on the onset of allergic disease especially bronchial asthma.

Under the age of 1, there were relationship between the onset of bronchial asthma and family history, and feeding habit and serum IgE. However there was no such a relationship over the age 1. There may be some relationship between the onset of asthma and upper respiratory infection.



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:気管支喘息およびアトピー性皮膚炎患者(4歳以下、330名)の初診時病歴および血液学的検査結果を検討し以下の結論を得た。1)、感冒または肺炎に罹患しやすいことは喘息の発症に関連していた(特に1歳および2歳)。2)、ダニは喘息の発症に関連していると考えられた。3)、1歳未満では気管支喘息の患児は喘息の家族歴をもったものから発症しやすかった。4)、妊娠中の母親が卵または牛乳を制限することは疾患の発症とは関連しなかったが血清のIgE値の上昇を防ぐ可能性があると考えられた。